

スイーツ生地メロン育苗ポットに

オーダースーツの老舗「銀座テーラーグループ」(東京)は、「帯広メロン」を栽培する芽室町の生産者と連携し、スイーツ生地の端材を使った育苗ポットの開発に取り組んでいる。環境に配慮した資材を提供し、メロンの価値を高める狙い。

同社は働き方の多様化でスイーツ需要が落ち込む中、消費者の環境に対する意識の変化に着目し、社会問題に配慮した商品作りに注力する。生地の端材を再利用する「反毛」の技術を生かし、スイーツ素材の羊毛と古紙を混ぜた混抄紙を使い育苗ポットを作った。

羊毛は植物の養分となる窒素、リン酸、カリウムを含み、微生物によって

東京のテラー、芽室の農家と開発

分解できるため、土にすき込むと肥料にもなる。開発には水環境問題の専門家の吉村和就氏(千葉県在住)が協力し、芽室町での試験栽培は中川郁子衆院議員らが仲介した。

6月30日には、同社の鰹淵美恵子会長らが、育苗ポットを使って帯広メロンを栽培する芽室町の農場を視察。生産者から生育が順調なことやポットの形状など改良点を聞き取った。収穫は8月ごろを予定。今後は帯広畜産大に生育への影響調査を依頼する。

鰹淵会長は「十勝との縁を大切に、将来的には東京で帯広のメロンを売り出したい」と話した。

(鈴木宇星)



①同社の育苗ポットで栽培したメロンを確認する鰹淵会長(手前)と吉村氏②羊毛や古紙で作った育苗ポット(中川明紀撮影)